

## チャリティ茶会開催

3月24日 県庁1階ロビー

3月24日(日)、前日までの冷たい雨で、福井城址天守台で予定していたチャリティ茶会を、急遽県庁1階ロビーに変更して開催しました。会場設営や水屋の準備はおおわらわでしたが、会員スタッフの一致団結で10時30分からの開始時間には間に合いました。残念ながら桜は咲いていませんでしたが、福井高校茶道部員のお点前とお運びの協力で、お茶席は艶やかに花盛り。そして美味しいお菓子は主旨を理解して下さった2店の和菓子屋さんの協力で単価も併せて桜づくしのお菓子

を作って頂きました。この日は駅前周辺を中心に開催されていた「春まつり」の効果もあり、前売り券販売と合わせてたくさんの方においで頂き、途切れることなく開始から午後4時の終了まで15回のお茶席で約200席のお客様をもてなしました。なお、個人からの募金や当日の募金箱とお茶席券売り上げの収益金、合わせて218,104円は日本ユネスコ協会を通じて能登の子どもたちへ送らせて頂きました。(記・東 隆代)



# 福井の酒のうまさについて知る

5月8日総会の後に、久しぶりに"ユネス講"が開催されました。

今回は「日本の伝統的なこうじ菌を使った酒造り」がユネスコ無形文化遺産への提案がされており、今年の11月頃には政府間委員会において決定されることになっていることから、テーマを「日本酒」にして行いました。日本酒造組合中央会も令和4年に「日本の伝統的なこうじ菌を使った酒造り技術の保存会」を設立して広報、啓発活動などを行っています。今回の講師には、常山酒造合資会社代表兼醸造責任者の常山晋平(39)



さんにお話ししました。まず最初に、福井には酒蔵がいくつあるかとの質問があり、現在27蔵。50年前は60蔵以上あったらしい。かなり減っているようで日本酒は苦戦しているとみることができる。常山酒造の創業は1804年、約220年の歴史がある。福井市内では最古の酒蔵だそうで、酒の銘柄は主力銘柄「常山」、昔ながらの「羽二重正宗」である。福井の酒がおいしいのは次のデータをみればわかるように、福井県酒の辛口度は全国21番目で1番は千葉である。ほぼ真ん中あたりの辛口度である。味わいの特色としては淡麗・旨味。吟醸比率は7番目55.7%。いい酒が多いと思われる。吟醸比率1位は皆さんご存じの「獺祭」の製造元がある山口で89%。酒造好適米使用比率は全国2位で85.8%。1位は山口91.5%。精米歩合は3位52.2%と福井の酒蔵が高品質な酒造りをしている事がデータで読み取れます。また福井県では、特別栽培の新酒米「さかほまれ」と福井県独自の酵母による県の特色をだした地酒を各蔵でだしているのです是非飲んでいただきたいとの事でした。続いて「玄米」→「精米」→「洗米」→「蒸米」→「こうじ菌」→「酒母」→「もろみ」→「発酵」→「搾り」→

「ろ過」→「火入れ」などの日本酒の製造過程を紹介し、この工程の中で玄米からこうじ菌作りまでは人の手による作業が登録要件の一つだとのことです。

常山酒造でも「1, 県産米100%。2, 地域と連携し農業に貢献する。3, 常山でしか醸せない個性ある純米酒を作る。」を基本理念に奥越や福井市美山の伊自良地区の農家さんをお願いして特別栽培による「美山錦」「山田錦」「五百万石」を栽培してもらい、福井県の自然や水の良さを表す言葉である「越山若水」をコンセプトに酒造りを行っているとのことです。ただ、農業従事者の年齢が高くて将来農業をやる人の少なくなる事を心配していました。最後に酒造りは米の状態も毎年変わるし、製造過程でも微妙な違いが出てくるので、毎年一年生のもつりでやっている。ひとりでも多くの人に福井県のお酒を知ってもらいたいと結ばれました。また「福井県産のお米に何かあったら」との質問には「そうですね。困りますね。」と苦笑いしながら答えてくれました。今、海外でも評価が高まっている日本酒ですが先を見通しながら、熱く情熱をもち、伝統的な製法や地元のお米を大切にしつつ、環境への配慮や地域社会との共生を考えた酒造りにまい進する常山代表の話は福井の地酒が飲みたくなるお話でした。

また頂いた資料によると「伝統的の酒造り」とは『①原料を処理するわざ②こうじを造るわざ③発酵を管理するわざ(もろみの状態を見極めながら、糖化と発酵を同時に進行させる発酵形式で平行複発酵という世界でも珍しい方法によって、水以外の物品を添加することなく目的とする酒の味や香りなどを表現します)』と説明されています。(記・真木康至・伊藤貴夫)



# 田んぼファンクラブの草取りに参加



6月15日(土)に越前市白山地区の田んぼで“田んぼファンクラブ”の草取りに参加しました。

参加者は子どもも含めて約30人。大きい子どもさんも田んぼに入って作業開始。「抜くよりも稲の周囲を泥ごと根こそぎかきむしって下さい」とのアドバイスを受けて、コウノトリに見守られながら約1時間。気温は30度を越えていたものの、ずっと風が吹き抜けていたのでそれほど暑さを感じませんでした。

草取りは、ずっと中腰で泥をかき慎重に1歩ずつ前進の作業でしたが、少しずつ綺麗になっていく田んぼは、結構頑張らせてくれました。ただ、手袋をつけ忘れたことで爪の中に土が一杯入ってしまったことと、もっていった長靴の両方のくるぶしあたりが穴が空いていて長靴の中が大洪水になったことが今回の反省点です。事前のチェックが大事ですね。



## 雨の中 ビオトープ整備

日本ユネスコ協会と住友ゴム工業株式会社(ダンロップ)との共同事業「チームエナセーブ未来プロジェクト」が7月6日(土)に越前市で行われました。

当日はダンロップの社員38人と受け入れ団体の「水辺

と生き物を守る農家と市民の会」のメンバーなど約50人が越前市白山地区の武生第五中学校跡地のビオトープ整備に参加しました。「熱中症に気をつけて作業にあたって下さい」との注意があって、約10分の距離にあるビオトープへ出発。

ビオトープに到着して作業手順の説明の頃から急に天候が変わり雨が降り出しました。それでも、泥上げや草刈り用のスコップ、クワや長柄のカマをもって作業開始。ダンロップの社員は若い方が多く、力もあり水路の泥上げも草刈りも順調に進みましたが、雨脚も変わらず強く、降りやむ様子もなく、またびしょ濡れになったことから作業は中止となりました。作業時間は約40分から50分と短かったのですが予定の半分くらいはできたという事です。



# 福井ユネスコ総会開催

令和6(2024)年度総会が5月8日(水)に福井市の(一社)杉本育文化財団で開催されました。議事に先立ち光野総会長は「ウクライナ、ガザなど今の世界の情勢を見るとユネスコ憲章の“心の中に平和のとりでをきずかなければいけない”を改めて思うとともに、これまでもこれからもユネスコ憲章にのっとり活動を続けていきたい。今年は福井ユネスコが発足して25年になります。会員の年齢が私を含めて高くなってきました。その時々々の状態に合わせてやることをやっていきたいと思う。この1年で協力ご支援をお願いします」と挨拶しました。総会では上程された令和5年度活動報告・収支決算、令和6年度活動計画案・収支予算案が原案通り承認されました。また総会の中で光野会長からは「財政基盤をしっかりと構築するために会員増をはじめ会費

以外の収入先や収入の上がる事業などの手立てを考えなければいけない。会員の皆さんからも意見をいただきたい」との提案もあり、今年度の総会を終了しました。



## 2024年度第1回中部西ブロック・ユネスコ連絡協議会

6月29日(土)に今年度最初の中部西ブロック・ユネスコ連絡協議会がオンライン形式で開催され、本協会からは光野会長と小竹副会長が参加しました。この会議は中部西ブロック(愛知、岐阜、三重、福井、石川、富山の6県)に所属する協会の情報交換などを目的に、年3回程度開催されており今回で通算6回目の開催となりました。

会議では富山ユネスコ協会から今年10月29日(土)に富山電気ビルディングで開催予定の「中部西ブロック・ユネ

スコ活動研究会」の要綱が発表されたほか、ユネスコ中期戦略期間中(2022年~2029年)に成果をあげることができるとの日本ユネスコ国内委員会の取り組みなどが伝えられました。また、各地の活動状況について、福井からは県内の地域活動と連携して開催している「ふくいユネスコフォーラム」について光野会長が発表し2時間近くの会議を終了しました。

## ふくいユネスコフラッシュ

2024年

3月24日(日)

チャリティ茶会(福井県庁ロビー)

5月8日(水)

ふくいユネスコ協会総会・ユネスコ講  
(福井市・杉本育文化財団)

6月15日(土)

田んぼファンクラブ草抜き(越前市白山地区)

6月29日(土)

2024年度第1回中部西ブロック・ユネスコ  
連絡協議会(オンライン)

7月6日(土)

「チームエナセーブ未来プロジェクト」ビオ  
トープ整備(越前市)

## 2024年度 下期行事予定

10月13日(日) ふくいユネスコフォーラム(越前市・市民プラザたけふ)  
基調講演 越前市長 山田賢一氏  
報告発表 ・越前生漉鳥の子紙保存会  
・越前打ち刃物保存会

10月13日(日) 宝の道(越前市中心部散策)

10月19日(土) 中部西ブロック・ユネスコ活動研究会(富山市)

11月23日(土) 第80回ユネスコ運動全国大会(愛媛県新居浜市)  
記念講演「SDGsの先進事例から学ぶ」

住友資料館顧問 末岡照啓氏

実践発表 新居浜南高校ユネスコ部  
新居浜市立多喜浜小学校  
惣開小学校・舟木中学校

## 編集後記

猛暑日が珍しくなくなった今年の夏でした。もうこれからは暑い暑い夏が当たり前になってくるのでしょうか。地球温暖化の進行が少しでも遅くなるように、小さいことからコツコツやっていきたいものです(TI)



ふくいユネスコ協会

910-0003 福井市松本4丁目8-4 生涯学習課分室内 TEL&FAX 0776-22-8181  
E-mail fukuiunescoasnjapan@white.plala.or.jp